

1 経営的特徴と導入方法

コデマリは、気象に対する適応性は広く、挿し木や株分けで繁殖できるので、寒冷地から暖地まで庭木として栽培されている。

枝物としては花物、葉物、紅葉物として用途は広いが、水揚げが悪く、また花芽の発達が緩慢なため切枝の促成は行わない。促成は株を掘り上げて根付きのままで行うか栽培しているほ場にビニールを被覆して促成する。促成は、早生品種を用いるが、早生系は立枯性病害に弱いので、防除が必要でコデマリは他の枝物に比べ集約的な種類といえる。

表1 10a当たり月別所要労働時間（単位：時間）

月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
時間	66.0	213.0	126.0	26.0	42.0	14.0

7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
13.0	6.0	2.0		16.0	6.0	530.0

(注) 1. 徳島県経営類型(1996.3)

2. 21,500本/10a

2 生理生態的特性と適応性

(1) 生理生態的特性

バラ科、シモツケ属、中国原産、草丈1～2mの落葉低木で4月から5月にかけて白い小さな花が集まってまり状に連なって咲く。

コデマリの花芽は、新しょうの各葉えきより短い側枝を伸ばし、この頂端に散房状に分化する。

花芽分化は15℃以下の涼温に遭遇することで開始される。花芽の分化過程について、群馬園試の調査をみると10月中旬に分化をはじめ、雌ずいの形成が終わるのは3月末になっている。花芽分化については小杉氏の調査（昭和26年、東京）によると生長点が肥大して分化をはじめめるのは、9月28日で、10月8日花房分化期、11月9日ながく片形成期になったが、そのまま発育がとまり、2月7日にようやく花弁が形成され、3月28日雌ずい形成期、4月17日胚珠、花粉が形成され5月7日に開花してゐる。

畑作園芸試験場花き科（六戸町）の昭和62年度の調査では、昭和62年12月下旬に生長点肥大がみられ肥厚期となり、昭和63年1月上旬に花房分化期となった。

昭和63年度の調査では、昭和63年11月下旬～12月上旬から肥厚期となり、12月下旬にながく片形成期がみられたのち、未分化期、肥厚期となり、再び1月上旬に花房分化期、1月下旬にながく片形成期となった。これは、枝により花芽分化のステージに早晚があったためと考えられる。

このようにコデマリの花芽の発育は緩慢で長い時間を要するのが特徴であり、本県においても年次変動差や枝ごとの個体差が大きいことが明らかとなっている。なお、ながく片形成期のあと次の段階へ進ませるには0～5℃で4週間ほど低温処理するとよく、自然では約4ヶ月かかって花粉形成期に達するが、5℃以上で

加温すると約10日で花粉形成期に達する。従って、12月下旬から夜温20℃で加温すると2月に開花できる。

(2) 適応性

気象や土壌に対する適応性は広く、挿し木や株分けで繁殖できるので、どこでも栽培できるが、日が当たって、排水のよい砂壤土や、耕土の深い肥よく地が適地である。

3 作型と品種

作 型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
加温促成栽培 (株掘り上げ)												
無加温促成栽培 (据え置き株)												
普通栽培												

注) ⇒ : 株掘り上げ ■ : 切り枝促成出荷期間

(1) 作 型

ア 加温促成栽培 (株掘り上げ)

畑作園芸試験場花き科 (六戸町) が平成元年度に切枝で行った促成試験からみて、本県においても12月下旬から1月下旬に株を掘り上げてハウスに入れて加温すると、2月中旬頃から3月中旬頃に出荷できると思われる。ハウスは内張りカーテンを2重に張り保温性をよくする。

温度は発芽しつぼみが見え始めるころまで夜温20℃、日中は30℃くらいまで上げる。シリンジは1日3～4回行う。発らい以降は夜温を15～18℃、日中25～30℃前後とし、1日1～2回株元かん水に切り替える。出荷7～10日前までは夜温5～8℃、日中20～25℃とし、出荷2～3日前まで株元へ2～3日に1回かん水する。保温開始から開花までの日数はおよそ45日である。なお、葉が付いた状態で促成しても開花が揃わないので、株を掘り上げる前に強制的に落葉させる。

なお、この作型は掘り上げ・運搬に労力を要し大量栽培できない、断根のため株に力がなく促成が難しい、2年に1回しか切り枝できないなどの欠点がある。したがって、栽培ほ場にビニールハウスを建てて加温・促成した方が労力的にも品質的にも良い。

表2 コデマリの切枝時期と開花率

(平成元年 青森畑園試)

切枝時期	調査月日	花芽分化のステージ		5℃以下遭遇時間	花芽数	開花割合 (%)			副梢数	備考
		花房分化期	がく片形成期			開花	未開花	枯死		
12.28	2.14	1	4	724	154	13.0	7.0	80.0	8.3	落葉後
1.16	2.26		5	1151	188	9.3	1.7	89.0	12.4	〃
1.31	3.14		5	1511	140	21.3	1.6	77.1	14.4	〃

イ 無加温促成栽培 (据え置き株)

雪が少なく日射量の多い県南地方では、2月上旬頃に被覆すると4月上旬頃から出荷できると思われる。津軽地方においても、3月末頃に被覆すると5月上～中旬頃に出荷できると思われる。保温を開始したら夜温は5～7℃以下にしないように注意し、寒い日は保温マット等をかけ日中は30℃まで上げる。シリンジは1日2回程度で株元へもかける。つぼみが見え始めたら日中の温度は25～30℃で換気し、あまりむらさないようにする。シリンジは行わず株元へ3日に1回程度かん水する。

出荷の7～10日前頃より日中の温度は20～25℃に下げ、かん水を出荷5日前後になったら打ち切る。

ウ 普通栽培

(ア) 自然咲き

自然開花期である5月から6月に、露地で咲いている花を切り枝して出荷する。

(イ) 新葉

葉物として緑葉を出荷する場合は、開花後新しょうが伸長した頃で、6月から7月に出荷する。

(ウ) 紅葉

紅葉物としては10月から11月に出荷する。自然のままの紅葉は、下葉が黄変して落葉するので、人工的な処理をして紅葉させるのが良い。処理の方法は、地際の茎をペンチで幅1cmほど環状はく皮する。静岡の例でははく皮をしてから30～40日で紅葉をはじめ、50～60日で切枝している。

表3 ミズホコデマリの紅葉処理時期と出荷期

(船越 1977)

環状剥皮	紅葉始め	切枝適期	備考
9. 1	10. 10～12	10. 25～30	無処理区は黄変して落葉
9. 10	10. 12～15	10. 25～30	落葉始めは11月15日、
9. 20	10. 20	11. 2	9月20日区は出荷の幅がない

注) 静岡県引佐町 標高450m 西南面傾斜地

(2) 品 種

「早生コデマリ」: 現在の主力品種。早生で促成、自然咲き用いずれにも向く。草丈は1m前後で低く、枝は細く、葉も小型である。性質が弱く立枯性病害に弱いので、排水の良い耕土の深い土壌で栽培する。

「晩生コデマリ」: 晩生系は草丈1.5m以上に伸び葉は大きく、自然咲きか紅葉で出荷する。立枯性病害にもほとんどおこされない。

「ミズホコデマリ」: 「早生種」と「ドイツコデマリ」の交配種といわれ、「早生コデマリ」に比べ高生大輪

となるが、開花期は早生種よりやや遅い。立性で発育が良く、立枯性病害にも強い。促成すると花首の垂れるのが欠点といわれ自然咲きで出荷する。また紅葉が美しいので、秋に葉物としても出荷される。

「新ミズホコデマリ」：「ミズホコデマリ」の改良種とされ、立性で樹勢が旺盛である。自然咲きや葉物として出荷されている。

「ヤエノコデマリ」：樹勢が弱く、ややわい性種であるが白い八重の花を多数つける。花の日持ちがよいので、切り枝に適している。



「早生コデマリ」

4 栽培

(1) 繁殖

ア 挿し木

挿し木は春先の新芽の動く前に1年生（前年生枝）の太さ5mm前後の枝を15cm位に切り、下部をくさび形にけずり、一晩水揚げして肥料分の少ない赤土や黒ボクに挿し木する。挿し穂は枝の先端の細いところや基部の堅いところは発根が悪いのでさける。挿し木床は高さ10cm、幅90cmの短ざくにつくり、挿し木の間隔は15cm×6cmとし、挿し穂の3分の2が埋まるように挿す。挿し木後かん水をし、雑草防止と乾燥防止をかねて間にもみがら切わらを敷く。挿し木後2ヶ月くらいで発根するので液肥等を施して養成し、翌春定植する。

イ 株分け

前年春に盛土をし、盛土面から上へ15～20cm程度枝を残して、株全体の枝を切り取る。株分けは春、新芽がほう芽する直前に行い、定植する。

(2) ほ場の選定、定植準備

日当たりがよく肥よく排水の良い土壌条件を好み、夏期に土壌水分が不足すると落葉しやすくなり生育が衰える。ただし、湿気やすいほ場や地下水位が高い所ではしばしば立枯病が発生するので注意する。適地を選定し、定植前に粗大有機質を施し、深耕後やや高めにうねを作る。

(3) 土壌改良・施肥

切り枝栽培は側枝の発生をよくするため、肥料はやや多めに施す。基肥は10a当たり堆肥2～3t、鶏糞または油かす200kg、化成肥料は成分量で三要素各20～30kg施す。3年目以降は、窒素、りん酸、加里で各50kg程度を目安に、開花後の6～7月と秋に分施する。

(4) 定植

春4月頃に定植する。栽植密度はうね幅90～120cm、株間40～60cm程度とし、樹勢の弱い早生種はやや密植にする。定植が終わったら、かん水を十分に行い、乾燥防止のため敷きわらをする。

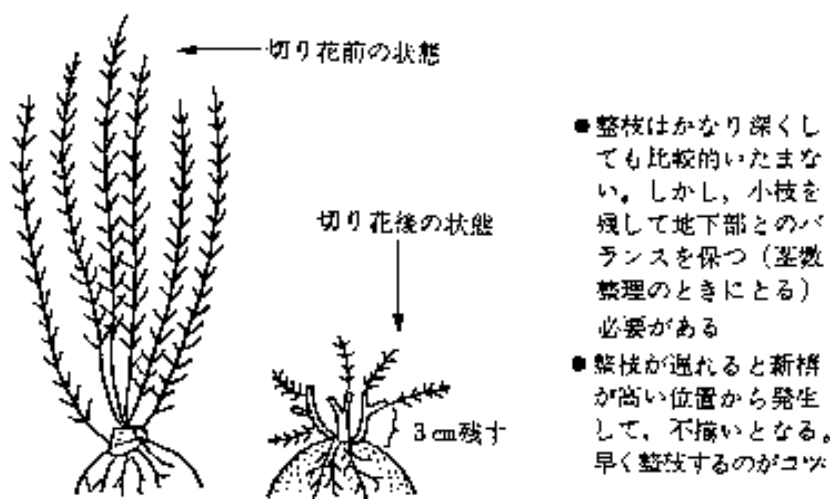
(5) 定植後の管理

ア 株養成

定植後は乾燥防止に努めてかん水し、夏期は敷きわら等を行う。さらに雑草防除、病虫害の早期発見、防除を行い、株の充実を図る。

イ せん定

2年目の春は自然咲きを少し出荷し、株元の小枝を5～6本残して、高さ3cmくらいで台刈りする。小枝を残すのは、地上部と地下部のバランスを保つためで、小枝を全部切除すると樹勢が衰える。この小枝は2年目だけでなく、毎年残すのが良く、残した小枝は6～7月の茎数整理のときに取り除く。



図－1 早生ユデマリの整枝方法

1株からの枝の発生数が多いと、枝の充実が悪く、花芽の着生も悪くなるので、6～7月頃そろった生育のよい茎を残して他は整理する。1株当たりの茎数は最盛期で20～25本程度を目標にする。

なお老化した枝はよい花をつけずに枯死していくので株元で切る。株元より新しい枝が出てくる場合は、老化枝と更新するため残すが、多過ぎる時は間引く。また、内側の枝が日照不足のため枯れ込んできたり、枝どうしが競合すると老化を早め、共倒れとなり、さらに風通しが悪いためカイガラムシが多発して花つきが悪くなる。

5 主要病害虫とその防除対策

(1) 病 害

うどんこ病、炭疽病などが報告されている。

(2) 虫 害

ユキヤナギアブラムシやハマキムシ類等が寄生するが、他の害虫も含めて県内では不明な点が多い。

6 収穫・促成・調製・出荷

(1) 促成・季咲き

ア 促成の方法は、作型で述べたとおりとする。

イ 切り前は2月から4月出荷は2～3分咲き、自然咲きは2分咲きとする。

ウ 収穫後は一度水揚げをして調製作業に移る。花の着いていない秋芽や切り枝下部の小枝を外した後、階級別に10本束をつくる。その際、小枝が外にうまく広がるように組むのがポイント。

エ 品質の評価点は、ボリュームがあり、花が下の方まで密に着いていて、コデマリ特有のしなやかさがあり、花首が赤くなったり、徒長していないことなどがあげられる。

オ 再度一晩水揚げして箱詰め、出荷する。なお、コデマリは数枚の葉の先に小花が房状につくので、気温が上がってからの出荷は輸送中にむれやすいので葉をよく乾かしてから出荷する。

(2) 紅葉物

紅葉物は半分ぐらいの葉が紅葉した時期が収穫適期である。

参考・引用文献

- 1) 船越桂市、「農業技術大系 花卉編 11 花木、観葉植物」、農山漁村文化協会（平成6年）
- 2) 川瀬範毅、「新特産シリーズ -枝物-」、農山漁村文化協会（平成10年）
- 3) 山形園試、福島園試いわき支場、宮城園試「寒冷地における枝物花木の栽培と促成技術の確立」（総合助成試験成果）（昭和56年）
- 4) 長野県、長野県農協中央会、長野県経済連、「花き栽培指標」（平成5年）
- 5) 宮城県、「みやぎの花き栽培指導指針」（平成12年）
- 6) 外岡慎、小林泰生、「切り花栽培技術マニュアル」、誠分堂新光社（平成4年）

コデマリ 栽培ごよみ

月	旬	生育	作業	栽培の要点	摘要																																																																	
1	上	株掘り上げ	株掘り上げ	<p>1. 作型</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加温促成栽培 (株掘り上げ)</td> <td colspan="12">Ω ——— Ω — ⊙ ■ ■ ■ ■ ■ — ⊙ ————— ⊙</td> </tr> <tr> <td>無加温促成栽培 (据え置き株)</td> <td colspan="12">— ∩ ——— ■ ■ ■ —————</td> </tr> <tr> <td>普通栽培</td> <td colspan="12">————— □ □ □ ————— □ □ □ ————— □ □ □ —————</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="12" style="text-align: center;">季咲き 新芽 紅葉</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) ⊙ : 株掘り上げ、∩ : トンネル被覆、■ : 切り枝促成出荷期間、□ : 切り枝収穫期間</p>		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	加温促成栽培 (株掘り上げ)	Ω ——— Ω — ⊙ ■ ■ ■ ■ ■ — ⊙ ————— ⊙												無加温促成栽培 (据え置き株)	— ∩ ——— ■ ■ ■ —————												普通栽培	————— □ □ □ ————— □ □ □ ————— □ □ □ —————													季咲き 新芽 紅葉												
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																																																						
加温促成栽培 (株掘り上げ)	Ω ——— Ω — ⊙ ■ ■ ■ ■ ■ — ⊙ ————— ⊙																																																																					
無加温促成栽培 (据え置き株)	— ∩ ——— ■ ■ ■ —————																																																																					
普通栽培	————— □ □ □ ————— □ □ □ ————— □ □ □ —————																																																																					
	季咲き 新芽 紅葉																																																																					
中																																																																						
2	下				据え置き株無加温促成	定植	<p>2. 品種</p> <p>「早生コデマリ」：現在の主力品種。早生で促成、自然咲き用。</p> <p>「晩生コデマリ」：晩生で自然咲きか、紅葉で出荷。</p> <p>「ミズホコデマリ」：自然咲きか、紅葉で出荷。</p> <p>「新ミズホコデマリ」：自然咲きか、葉物として出荷。</p> <p>3. 繁殖</p> <p>(1) 挿し木：春先の新芽が動く前の1年生(前年枝)の太さ5mm前後の枝を15cm位に切り、下部をくさび状に削り、一晚水揚げして赤土や黒ボクに15cm×6cm間隔で挿す。挿し木後かん水して雑草防止と乾燥防止のためにもみがかかり切りわらを敷く。</p> <p>(2) 株分け：前年春に盛土をし、盛土面から上へ15～20cm程度枝を残して株全体の枝を切り取る。株分けは春、新芽がほう芽する直前に先行定植する。</p> <p>4. ほ場選定、土壌改良、施肥</p> <p>(1) 日当たりがよく肥沃で排水のよいほ場を選び、粗大有機物を定植前に施し、深耕後やや高うねにする。</p> <p>(2) 側枝の発生をよくするため、肥料はやや多めに施す。定植時は10a当たり堆肥2～3t、窒素、りん酸、加里各20～30kg施す。3年目以降は窒素、りん酸、加里各50kg程度を開花後の6～7月と秋に分施する。</p> <p>5. 定植</p> <p>(1) 4月頃に定植する。</p> <p>(2) うね幅90～120cm、株間40～60cm程度とする。早生種はやや密植とする。</p> <p>(3) 定植後、十分にかん水して、乾燥防止のための敷きわらをする。</p> <p>6. せん定</p> <p>(1) 2年目は自然咲きを少し出荷後、株元の小枝を5～6本残して高さ3cmぐらいで台刈りする。</p> <p>(2) 6～7月頃生育の揃ったよい茎を1株当たり最盛期で20～25本程度を目標に残し、その他の茎は整理する。</p> <p>7. 収穫、促成、調製、出荷</p> <p>(1) 促成、自然咲き</p> <p>ア 加温促成栽培では、強制的に落葉させた株を掘り上げ促成ハウスに入れ、夜温20℃、日中は30℃くらいまで上げる。シリンジは1日3～4回行う。発らい以降は夜温15～18℃、日中25～30℃前後とし、1日1～2回株元へかん水する。</p> <p>イ 無加温促成栽培では、据え置き状態にハウス等で保温し、夜温5～7℃以上、日中30℃を目安とする。1日2回程度株元へかん水する。発らい以降は日中25～30℃で換気し、出荷の7～10日前頃から日中は20～25℃に下げかん水量も減らす。</p> <p>ウ 切り前は2～4月出荷で2～3分咲き、自然咲きは2分咲きとする。</p> <p>エ 収穫後一度水揚げしてから調製作業を行い、規格別に束ねる。</p> <p>オ 再度一晚水揚げして出荷する。</p> <p>(2) 紅葉物は半分くらいの葉が紅葉したら収穫適期である。</p>																																																															
	中																																																																					
3	上				定植	かん水、敷きわら	<p>5. 定植</p> <p>(1) 4月頃に定植する。</p> <p>(2) うね幅90～120cm、株間40～60cm程度とする。早生種はやや密植とする。</p> <p>(3) 定植後、十分にかん水して、乾燥防止のための敷きわらをする。</p>																																																															
	中																																																																					
4	上				萌芽	自然咲き出荷	<p>6. せん定</p> <p>(1) 2年目は自然咲きを少し出荷後、株元の小枝を5～6本残して高さ3cmぐらいで台刈りする。</p> <p>(2) 6～7月頃生育の揃ったよい茎を1株当たり最盛期で20～25本程度を目標に残し、その他の茎は整理する。</p>																																																															
	中																																																																					
5	上	開花	施肥	<p>7. 収穫、促成、調製、出荷</p> <p>(1) 促成、自然咲き</p> <p>ア 加温促成栽培では、強制的に落葉させた株を掘り上げ促成ハウスに入れ、夜温20℃、日中は30℃くらいまで上げる。シリンジは1日3～4回行う。発らい以降は夜温15～18℃、日中25～30℃前後とし、1日1～2回株元へかん水する。</p> <p>イ 無加温促成栽培では、据え置き状態にハウス等で保温し、夜温5～7℃以上、日中30℃を目安とする。1日2回程度株元へかん水する。発らい以降は日中25～30℃で換気し、出荷の7～10日前頃から日中は20～25℃に下げかん水量も減らす。</p> <p>ウ 切り前は2～4月出荷で2～3分咲き、自然咲きは2分咲きとする。</p> <p>エ 収穫後一度水揚げしてから調製作業を行い、規格別に束ねる。</p> <p>オ 再度一晚水揚げして出荷する。</p>																																																																		
	中																																																																					
6	上	紅葉	施肥	<p>7. 収穫、促成、調製、出荷</p> <p>(1) 促成、自然咲き</p> <p>ア 加温促成栽培では、強制的に落葉させた株を掘り上げ促成ハウスに入れ、夜温20℃、日中は30℃くらいまで上げる。シリンジは1日3～4回行う。発らい以降は夜温15～18℃、日中25～30℃前後とし、1日1～2回株元へかん水する。</p> <p>イ 無加温促成栽培では、据え置き状態にハウス等で保温し、夜温5～7℃以上、日中30℃を目安とする。1日2回程度株元へかん水する。発らい以降は日中25～30℃で換気し、出荷の7～10日前頃から日中は20～25℃に下げかん水量も減らす。</p> <p>ウ 切り前は2～4月出荷で2～3分咲き、自然咲きは2分咲きとする。</p> <p>エ 収穫後一度水揚げしてから調製作業を行い、規格別に束ねる。</p> <p>オ 再度一晚水揚げして出荷する。</p>																																																																		
	中																																																																					
7	上	紅葉	施肥	<p>7. 収穫、促成、調製、出荷</p> <p>(1) 促成、自然咲き</p> <p>ア 加温促成栽培では、強制的に落葉させた株を掘り上げ促成ハウスに入れ、夜温20℃、日中は30℃くらいまで上げる。シリンジは1日3～4回行う。発らい以降は夜温15～18℃、日中25～30℃前後とし、1日1～2回株元へかん水する。</p> <p>イ 無加温促成栽培では、据え置き状態にハウス等で保温し、夜温5～7℃以上、日中30℃を目安とする。1日2回程度株元へかん水する。発らい以降は日中25～30℃で換気し、出荷の7～10日前頃から日中は20～25℃に下げかん水量も減らす。</p> <p>ウ 切り前は2～4月出荷で2～3分咲き、自然咲きは2分咲きとする。</p> <p>エ 収穫後一度水揚げしてから調製作業を行い、規格別に束ねる。</p> <p>オ 再度一晚水揚げして出荷する。</p>																																																																		
	中																																																																					
8	上	紅葉	施肥	<p>7. 収穫、促成、調製、出荷</p> <p>(1) 促成、自然咲き</p> <p>ア 加温促成栽培では、強制的に落葉させた株を掘り上げ促成ハウスに入れ、夜温20℃、日中は30℃くらいまで上げる。シリンジは1日3～4回行う。発らい以降は夜温15～18℃、日中25～30℃前後とし、1日1～2回株元へかん水する。</p> <p>イ 無加温促成栽培では、据え置き状態にハウス等で保温し、夜温5～7℃以上、日中30℃を目安とする。1日2回程度株元へかん水する。発らい以降は日中25～30℃で換気し、出荷の7～10日前頃から日中は20～25℃に下げかん水量も減らす。</p> <p>ウ 切り前は2～4月出荷で2～3分咲き、自然咲きは2分咲きとする。</p> <p>エ 収穫後一度水揚げしてから調製作業を行い、規格別に束ねる。</p> <p>オ 再度一晚水揚げして出荷する。</p>																																																																		
	中																																																																					
9	上	紅葉	施肥	<p>7. 収穫、促成、調製、出荷</p> <p>(1) 促成、自然咲き</p> <p>ア 加温促成栽培では、強制的に落葉させた株を掘り上げ促成ハウスに入れ、夜温20℃、日中は30℃くらいまで上げる。シリンジは1日3～4回行う。発らい以降は夜温15～18℃、日中25～30℃前後とし、1日1～2回株元へかん水する。</p> <p>イ 無加温促成栽培では、据え置き状態にハウス等で保温し、夜温5～7℃以上、日中30℃を目安とする。1日2回程度株元へかん水する。発らい以降は日中25～30℃で換気し、出荷の7～10日前頃から日中は20～25℃に下げかん水量も減らす。</p> <p>ウ 切り前は2～4月出荷で2～3分咲き、自然咲きは2分咲きとする。</p> <p>エ 収穫後一度水揚げしてから調製作業を行い、規格別に束ねる。</p> <p>オ 再度一晚水揚げして出荷する。</p>																																																																		
	中																																																																					
10	上	紅葉	施肥	<p>7. 収穫、促成、調製、出荷</p> <p>(1) 促成、自然咲き</p> <p>ア 加温促成栽培では、強制的に落葉させた株を掘り上げ促成ハウスに入れ、夜温20℃、日中は30℃くらいまで上げる。シリンジは1日3～4回行う。発らい以降は夜温15～18℃、日中25～30℃前後とし、1日1～2回株元へかん水する。</p> <p>イ 無加温促成栽培では、据え置き状態にハウス等で保温し、夜温5～7℃以上、日中30℃を目安とする。1日2回程度株元へかん水する。発らい以降は日中25～30℃で換気し、出荷の7～10日前頃から日中は20～25℃に下げかん水量も減らす。</p> <p>ウ 切り前は2～4月出荷で2～3分咲き、自然咲きは2分咲きとする。</p> <p>エ 収穫後一度水揚げしてから調製作業を行い、規格別に束ねる。</p> <p>オ 再度一晚水揚げして出荷する。</p>																																																																		
	中																																																																					
11	上	紅葉	施肥	<p>7. 収穫、促成、調製、出荷</p> <p>(1) 促成、自然咲き</p> <p>ア 加温促成栽培では、強制的に落葉させた株を掘り上げ促成ハウスに入れ、夜温20℃、日中は30℃くらいまで上げる。シリンジは1日3～4回行う。発らい以降は夜温15～18℃、日中25～30℃前後とし、1日1～2回株元へかん水する。</p> <p>イ 無加温促成栽培では、据え置き状態にハウス等で保温し、夜温5～7℃以上、日中30℃を目安とする。1日2回程度株元へかん水する。発らい以降は日中25～30℃で換気し、出荷の7～10日前頃から日中は20～25℃に下げかん水量も減らす。</p> <p>ウ 切り前は2～4月出荷で2～3分咲き、自然咲きは2分咲きとする。</p> <p>エ 収穫後一度水揚げしてから調製作業を行い、規格別に束ねる。</p> <p>オ 再度一晚水揚げして出荷する。</p>																																																																		
	中																																																																					
12	上	紅葉	施肥	<p>7. 収穫、促成、調製、出荷</p> <p>(1) 促成、自然咲き</p> <p>ア 加温促成栽培では、強制的に落葉させた株を掘り上げ促成ハウスに入れ、夜温20℃、日中は30℃くらいまで上げる。シリンジは1日3～4回行う。発らい以降は夜温15～18℃、日中25～30℃前後とし、1日1～2回株元へかん水する。</p> <p>イ 無加温促成栽培では、据え置き状態にハウス等で保温し、夜温5～7℃以上、日中30℃を目安とする。1日2回程度株元へかん水する。発らい以降は日中25～30℃で換気し、出荷の7～10日前頃から日中は20～25℃に下げかん水量も減らす。</p> <p>ウ 切り前は2～4月出荷で2～3分咲き、自然咲きは2分咲きとする。</p> <p>エ 収穫後一度水揚げしてから調製作業を行い、規格別に束ねる。</p> <p>オ 再度一晚水揚げして出荷する。</p>																																																																		
	中																																																																					
12	上	紅葉	施肥	<p>7. 収穫、促成、調製、出荷</p> <p>(1) 促成、自然咲き</p> <p>ア 加温促成栽培では、強制的に落葉させた株を掘り上げ促成ハウスに入れ、夜温20℃、日中は30℃くらいまで上げる。シリンジは1日3～4回行う。発らい以降は夜温15～18℃、日中25～30℃前後とし、1日1～2回株元へかん水する。</p> <p>イ 無加温促成栽培では、据え置き状態にハウス等で保温し、夜温5～7℃以上、日中30℃を目安とする。1日2回程度株元へかん水する。発らい以降は日中25～30℃で換気し、出荷の7～10日前頃から日中は20～25℃に下げかん水量も減らす。</p> <p>ウ 切り前は2～4月出荷で2～3分咲き、自然咲きは2分咲きとする。</p> <p>エ 収穫後一度水揚げしてから調製作業を行い、規格別に束ねる。</p> <p>オ 再度一晚水揚げして出荷する。</p>																																																																		
	中																																																																					